

令和3年度 第1回

## 橋本市総合教育会議記録

令和3年7月7日（水）

令和3年度 第1回橋本市総合教育会議記録

開催日時 令和3年7月7日(水) 午前9時00分～

開催場所 応其小学校 第2図書室

出席者	市長	平木 哲朗		
	教育長	今田 実		
	教育長職務代理者	中尾 悦子		
	委員	田中 敬子	簗下 純男	吉田 元信
	応其小学校 校長	辻脇 昌義		
出席職員	総合政策部長	上田 力也	教育部長	阪口 浩章
	政策企画課 課長	中岡 勝則	教育総務課 課長	正林 寿和
	学校教育課 課長	森口 伸吾	教育総務課 課長補佐	浦 貴則
	教育総務課		学校教育課 課長補佐	
	企画総務係長	久保田 芳弘	主任指導主事	川原 一真

協議事項に関し出席を求めた者

株式会社ベネッセコーポレーション	法花 康平
ICT 支援員	奥野 美穂
応其小学校教諭(六年生担任)	吉田 凌
応其小学校教諭(四年生担任)	伊藤 誠彦

1 開会 市長あいさつ

2 事前説明

学校教育課 課長補佐  
応其小学校長

3 授業参観

- ・4年1組 算数
- ・6年1組 算数

4 意見交換

- ・ICT教育の可能性と課題について ～授業参観を通して～

5 閉会 教育長あいさつ

開会 午前9時00分

教育部長

おはようございます。

ただいまより、令和3年度第1回橋本市総合教育会議を開催いたします。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

本日は事前にお配りしております資料に書いておりますように、ICT教育の可能性と課題についてということで、この応其小学校で授業を参観しながら会議を進めて参りたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

それでは開会にあたりまして、平木市長よりご挨拶をお願いいたします。

市長

皆さんおはようございます。

令和3年度第1回橋本市総合教育会議にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

平素は教育委員の皆さんには、橋本市の教育行政に熱心に取り組んでいただきまして、誠にありがとうございます。

昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもたちのために何が出るかということが本当に難しい状況ですが、出来るだけ修学旅行や運動会等の行事を行ってもらおうという方向でお話をさせていただいています。修学旅行については、今年も県内でお願いをしておりますが中学校はやはり難しいところがあります。子どもたちのために何をしてあげられるか、コロナ禍の中で何をしていく必要があるのかということも教育委員会も各学校も考えてもらえばいいかと思います。

今年は、パラリンピックに橋本市出身の中村智太郎選手と北田千尋選手が出場されるという本当にうれしい報告も受けております。パラリンピックに出場をしていただけるということは本当にうれしいことです。しっかり声援をしていただけたらと思います。

また、今年からGIGAスクールがスタートするというので、今田教育長にもお願いしているのは、新しい教育の形をきちっと作り、そして子どもたちに合わせる教育というのもぜひ考えて欲しいと伝えています。学年が上がるにつれ、先生を上回るような子どもたちも出てくるのかなという反面、やはり幼稚園や保育園、こども園から上がってくる子どもに対してどのような取り組みをしていただけるのか、タブレットを使ってどのような教育をしていくのかということも非常に大事なところかなと思います。一年生は毎年入ってきますし、どんどん進級はしますが、初めて入った一年生に対する気遣いも進めていく必要があると思います。これから、電子教科書も入ってくるだろうし、書いて学ぶということもあると思いますので、支援員さんが3年間いる間に一定の形を作り橋本市の教育が向上し、子どもたちが取り残されない教育をしていただければいいと思います。3年間はゆっくり見させてもらおうと思います。

私自身、総合教育会議は必要なのかなと思っています。確かに私はハードとかそういう部分での予算付けはしていきますが、教育方針や教育の形というのは、教育長であったり教育委員会であったり学校が作っていくものですので、やはりそこをしっかりと頭に入れて、予算が必要であるという話が出てきたら予算付けするよう

にもしていきます。ただ、どういう教育をしていくのか、タブレットと紙の使い分けであったり共有であったり、そういうところをしっかりと教育長も教育委員会も校長先生方も指導していただければいいかと思しますので、今後、橋本市の教育が良い方向に変わっていくように期待しています。ぜひ皆さんよろしくお願ひします。今日は本当にご苦勞様です。

教育部長

ありがとうございました。

それでは、今日の日程をご説明させていただきます。この後、9時半まで事前の説明をさせていただきます。9時35分から10時25分まで授業の参観、これは4年1組と6年1組の算数の授業を半コマずつ見ていただきます。その後またここに戻ってきまして、意見交換、感想等々、意見をいただき11時をめぐりに閉会と考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、学校教育課の課長補佐より事前の説明をさせていただきます。

学校教育課

課長補佐

主任指導主事

事前にお配りした資料に基づきまして、ご説明をさせていただきます。事前配付資料のページ1をご覧ください。まず、このGIGAスクール構想が進められてきた背景と、概要につきまして簡単にご説明をさせていただきます。国では国際的な調査から明らかになった課題ということで、学校におけるICT活用が世界から非常に遅れているという現状がございます。学習外ではICTの使用時間がOECD加盟国の中で平均以上であるにもかかわらず、実際には授業での機器の使用時間が加盟国中で最下位であるというような状況です。また都道府県、市町村による差の大きさがございました。そういった状況を受けまして、大きく二つのところを目指してこのGIGAスクール構想が進められてきました。一つ目は特別な支援を必要とする子どもを含め、誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成出来る教育ICT環境を実現すること。二つ目がこれまでの教育実践とICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限引き出すこと。この大きい二つの目標を達成すべく、高速ネットワークの整備、また1人1台端末の整備が進められることになりました。当初は5年ほどかけて整備を完了させる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けまして、急遽令和2年度中にネットワークも端末もすべて整備を行うということに国の方針が転換されました。本市におきましても、教員・児童生徒1人1台端末の整備、また高速ネットワークの整備については、令和3年の1月末にすべて終了しています。その後の整備状況、また学校の支援の状況について、令和2年度の事業では1月から3月にかけて国の補助金を活用しまして、各校にGIGAスクールサポーターと呼ばれる人材の配置事業を行いました。この方々によってマニュアルの作成、教員向けの校内研修の実施、授業に参加して操作方法の指導補助をしていただくということを実施しております。またTeamsという新しいアプリケーションの使い方や、端末の基本的な操作の仕方についての習熟を進めてきたデータがございます。令和3年度以降ですが、ICTの活用推進委託業務の一環としまして、各学校に授業支援システムとICT支援員の配置を行っています。授業支援システムの主な機能は教材を配付したり、また回収したり、画面を一斉に

表示したり、またある児童生徒の画面を全体で共有したりというような機能、また学級全体が共同で学習することを支援するような機能も有しています。本市におきましては、ベネッセコーポレーションが提供いたします授業支援システム「ミライシード」というシステムを提供しております。また、先生方の支援をする目的で ICT 支援員の配置を進めております。ICT 支援員につきましては、6 月末現在で概ね 4 回ずつの派遣が終了しています。各学校に 5 月初旬から、ひと月 2 回ずつ配置を始めまして 4 回ずつの派遣が終了しました。主に授業支援システムの名簿登録の初期設定作業であったり、授業システムの利用方法、また機能について校内研修を実施したり、授業実践についてご紹介いただいたりという業務をしていただいております。本日も実際の授業に入らせていただきまして、児童生徒への操作の支援、先生方へのサポートということに従事しております。今回初めて導入したシステムですので、まだまだ手探りの状態ではありますが、どのような授業で活用を進められるかということを経験がそれぞれ考えながら、様々な場面で利用を始めていて教員・児童生徒とも慣れ始めてきたところです。よく起こっているトラブルといたしましては、落下等による破損が 4、5 件起こっております。その都度交換・修理ということで対応しております。またネットワークにうまく接続出来ないというトラブルもありまして、これはフィルタリングソフトの調整、機器の設定変更、また機器の交換等で対応して現在正常に動いているというところです。

次のページをご覧ください。GIGA スクール構想で実現を目指す具体的な姿ということで、国の方向性とも歩調を合わせながら、GIGA スクール構想の実現を活用して大きな二つの目標を掲げて進めていきたいと考えております。まず、情報活用能力の育成でございます。学習指導要領にも、情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力として位置付けられました。情報活用能力とは、資料でございますように基本的な操作、キーボードの入力や、インターネット情報の閲覧等、基本的な操作の習得に関するものです。また問題解決・探求における情報活用ということで問題解決のために必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、解決に進めていくといったものです。またプログラミングですが、和歌山県の場合はきのくに ICT 教育ということで県が定めた共通のプログラムがございます。それに基づきプログラミングを進めていくということです。最後に情報モラル・情報セキュリティでいろいろ LINE 等のトラブルも起こっていますが、トラブルを事前に防ぐということで一定の知識・技能を身につけるという内容が含まれております。以上四つのものから構成される情報活用のための能力、大人になった時にさらに情報化が進む中で大事な能力になりますので、この部分の育成を一つ大きな目標として掲げられています。次にこれが一番中心になると思うのですが、ICT を効果的に活用した学習の実現へということを目指しております。ICT を活用することによりまして、これまでには実現出来なかった学習を展開することが可能になります。国でもこれまでの日本型教育で積み重ねられた教育実践とベストミックスを図ることが掲げられております。効果的な活用事例を共有することで、各教科等の学習活動を一層充実させられるよう取り組んでいきたいと考えております。代表的な活用例をいくつか紹介させていただきます。例えば、中学二年生の国語科の学習の内容に資料や機器を用いる

などして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現、工夫することという内容がございます。その例としまして、これまでは自分が発表している様子を他人が見て評価することは可能だったのですが、自分自身の発表の様子を見たり、ある生徒の発表を学級全体で共有して理解したりということは出来ませんでした。しかし、この ICT 機器を活用することでこれらのことが可能になります。学習指導で定められています学習効果の向上が見込まれます。同様なことは、例えば外国語や保健体育の学習でも活用が考えられます。また理科の実験の授業では、観察実験の様子を動画で撮影し保存していくことが可能になります。これまでであれば授業の中で実験の説明を行い、実験をして、後片付けをした上でその実験の内容についての考察を行うという一連の流れを1時間の中でしなくてはなりませんでしたが。本来はこの考察の部分にしっかりと時間を割くべきところですが、後日に考察を行うとなりますと実験当日の様子を忘れて、考察をしっかりと出来ないというようなことがございました。これが録画機能・記録する機能を使えますと、日が変わっても実験結果を改めて再現することが可能になります。じっくり時間をかけて、その実験の根底にある科学的な見方ということで現象を考察することが可能になります。また、遠隔地の学校と接続して学習成果を考慮したり、専門家の方と接続して専門的な指導を受けたりということも容易になります。

以上のように様々な活用例がありますが、本市におきましては中核的な位置付けとなる学校を研究指定校としまして、和歌山大学の先生のご指導もいただきながら授業での活用事例を収集して、全市的に共有していきたいと考えております。また、ICT 支援員につきましても、この事業の活用のノウハウをたくさんお持ちでございますので、そのノウハウを各学校に共有していきたいと思っております。

資料の最後に参考ということで国が例示しております、学びの変容のイメージ、ICT の活用場面についてこのような分類が考えられますという資料が例示されております。そちらの資料も添付させていただいておりますので、また今後ご参考にさせていただければと思います。

以上で簡単ですが、説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

教育部長

1人1台パソコンを使って ICT 活用による授業の姿というのを、今ご説明させていただきました。続いて応其小学校の辻脇校長より、四年生、六年生のそれぞれの指導案等について、どういう視点で見ていただくかというところも含めて説明をしていただきます。校長先生よろしく申し上げます。

応其小学校

皆さんおはようございます。

校長

簡単な指導略案が出ていますので、それに基づいて説明をさせていただきます。まずは四年生の算数の授業で平行四辺形を使う授業をします。「ミライシード」にアクセスし、ムーブノートからタブレットを使って平行四辺形を敷き詰めていくという作業をします。従来は、実際の紙を切りながら並べていくという作業をしていたのですが、タブレット上で操作をするというような授業になります。これが前半の授業

です。

後半は六年生の授業です。計算の方法について考える授業で、目当てはどんな計算になるかを考えて問題を解くかというところです。自分たちがノートにまとめたものを、オクリンクを使用して全体に共有し、他の児童が考えた中身をこのソフトを使い皆さんに共有してもらいます。そのソフトを使い子どもたちが、説明をしていくという作業になります。従来であれば黒板に発表ボードなどそういったアナログなシートを使いながら発表をしていましたが、今回はオクリンクを使用して共有をしていくという活動になります。以上です。

教育部長

ありがとうございました。

授業が始まるまでもう少し時間がありますので、学校教育課長補佐それから辻脇校長の説明の中で、何かご質問やご意見があれば少し時間を取らせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

どのようなところを見とけばいいのかとか、そんなご質問でも結構です。

田中委員

今は授業の準備は先生が事前にされていると思うのですが、子どもたちが授業の事前準備をすることで時間は短縮出来ないのか、現状は子どもたちに使うのを練習してもらうことに時間がたくさんかかっているのか、先生方の使う労力はどんなものかと思ってちょっと気になりました。今のところどうですか。

応其小学校

校長

負荷はかかっているかとは思いますが。まだ手探り状態で、今は ICT 支援員さんに月に 2 回来ていただいて、研修会ということで教員を集め少しの時間ですが、ちょっとしたノウハウを教えてください。そのノウハウを先生方は初めて使い、それを実際教室に持ち込んでどのようなことが出来るのかということを手探り状態で今児童に試しているというような状態です。思った以上に先生方が取り入れてきたアイデアを子どもたちが使っているようなところがあります。

今はまだ何が出来るのか、どういう使い方が出来るのかということを試行錯誤しながらやっているというところです。負荷もありますが教員の探求というところもあるのかなと思います。以上です。

教育長

田中委員が言われたことはすごく重要な部分だと思っています。そこを焦ると、これを使うことが広まっていけないと思っています。用意してもらっていることがどんなことに使えるのか、可能性があるのかということを経験者自身も理解することに時間をかけることと子ども自身が道具を使いこなせるということ、これは出来ないと子どもたちが自分の考えていることをどう表現するかということに繋がっていきませんので、しっかりここは時間かけて取り組んでいきたいと思っています。

教育部長

はい。ありがとうございます。

他に何かございませんか。

では、授業が始まりますのでこれで事前の説明は終わります。

教育部長

それでは、再開をさせていただきます。

これから意見交換になります。休み時間ということで先ほど授業参観させていただきました担任の先生にお越しいただいています。授業で使った感想や児童の手応え等も含めてお話をさせていただければと思います。よろしくお願いします。

応其小学校教諭  
(六年生担任)

使ってみた感想ですが、やはり起動させる時点でタブレットに何かしらの問題が毎回1人か2人は出てくるので、まずそこで時間を少し取られること。それから今日はあらかじめ児童にタブレットを持たせていたのですが、普段は充電している機械を出して持っていくという時間もかかります。そこがスムーズに出来れば、今日使ったオクリンクでいろんな児童の意見が共有出来るという面ですごく良いツールだと思います。今は教員も慣れてないですし、子どもたちも慣れていないので使っていて慣れていくことで、効果的に使う方法とか時間のロスが減っていくのかなと思っています。

応其小学校教諭  
(四年生担任)

今日は授業見ていただいてありがとうございます。「ミライシード」前回、オクリンクという簡単なものから今日はムーブノートというものを使わせていただきました。子どもたちの吸収が速くて、言わなくてもどんどんそのページまでたどり着いてくる子もいれば、まだまだそうではない子もいて、子どもたちの中でも差があります。今言っていました、やはり出し入れの問題と、あとは充電がしっかりされていないものが立ち上がらないといった問題がどのクラスでも見受けられる感じがします。使用する際は前もって、休み時間に1回立ち上げて不具合がないかというのを確かめるのがタブレットを使う上での大切な部分かなと感じています。

平行四辺形の敷き詰めは、切って貼るということが子どもたちもそれぞれスピードが違いますので、本来考えるべき時間を取ることが出来ませんが、今回これを使うことによって平行四辺形をあらゆる面から見つけるという時間に多くの時間を作ることが出来ました。それは成果だと考えております。ただ、不具合が出たときに担任1人ですと対応に時間を取ってしまい、先に進みたい子が待たされてしまうということがあります。今日のようにICT支援員さんがいていただけるとやはり心強く授業の進行がスムーズにいくのではないかと感じました。ただ、デジタルコンテンツが増えていくと教師も助けられる部分が多くありますので、これからも連携を続けて子どもたちと一緒に学んでいきたいと考えております。

教育部長

はい。ありがとうございます。

あと少し時間がありますので、もし教育委員の皆さんから先生方に何か質問等とかあれば、どうぞよろしくお願いします。

田中委員

今日はありがとうございます。例えば朝学との関連づけであったり、次回への



授業の期待であったり子どもたちがワクワクしていたので、今は楽しみでいっぱいだろうと授業を見せていただき思いました。ただ、授業をしている中で起動が遅れたり、苦手な子もいたりすると思います。そうなった時に先生が1人で回られている時に、声をあげられる子はいいと思うのですが、ちょっと恥ずかしくて声をあげられない子へのフォローがすごく必要になってくるかと思います。授業されていてそこら辺はどうでしょう。何か感じるころはありますか。

応其小学校教諭  
(四年生担任) おっしゃるとおりで「先生、先生」と言ってくれる子は気付けるのですが、内気であまり声をあげられない子に対しては机間指導しながら、画面を見て進んでいるかの確認が必要だと思います。ただそれが担任1人だけだと、30人いる中でチェックしきれないので、補助で入っていただければその部分が解消されるかなというのを感じています。以上です。

田中委員 苦手なことがあると、学校へ来るのが負担になるというところもあると思うので、そういうところもやはり気にしながら進めていただけたらと思います。

吉田委員 今日はどうもありがとうございます。たくさんの方の参観の中で授業を進めるのは大変だったと思います。

今言っていたようにタブレットの立ち上げとか、いろいろな問題が慣れるまでであると思います。そしてそのトラブルが発生した時に、すぐに対応してもらえ ICT 支援員の存在のこと、さらに機械的なメンテナンスのサポート体制ということも必要かと思います。

ソフトを使いこなす中で、やはり常に指摘されることはどのように児童に考えさせるかということ、そこの工夫だと思います。例えば、平行四辺形の敷き詰め問題は児童に考えさせる問題として、非常に適当な問題だろうと思います。最終的に何個の平行四辺形があるか、それは平行四辺形となぜいえるのか。これらのことは四年生ですから、そこまで考えることは難しいもしれないですけども、何らかの法則に近いものが導き出せるのであればさらに良いだろうと思います。あと、面積を出す問題で式とプラスその図をどこまで使えるのか。式であれば、ICT 云々ということではなくて黒板でも十分かなと思ったりします。プラス図を児童が3分の2の部分をどのようにして導き出すか。それは各児童の考える能力だとは思いますが。その児童自身の考える能力をどのようにして引っ張り出せるかということを少し工夫していただければありがたいなと思います。

中尾委員 単純な質問ですが、今日は ICT 支援員の方も含めてどれぐらいの方が補助して下さったかということ、それから普段は補助して下さる先生はいらっしゃるのかお聞きしたいと思ひまして、お願いいたします。

応其小学校教諭  
(四年生担任) ICT 支援員さんは月2回来られるので、その時には入っていただくことが出来ませんが、普段の授業で使うときは常に担任だけになっております。

中尾委員 今日、補助の先生はいらっしゃらなかったのですか。

応其小学校教諭 (四年生担任) 支援員と担任のみです。ただ今日もそうでしたが分かる子が、分からない子の様子を見に行ってくれるので、それはすごく助かります。先生が行けそうになかったら、その子のところに行き行って助けてくれているので、それは担任としてすごく助かっている部分です。

教育部長 はい。では、休み時間も終わりますので先生方どうもありがとうございました。それでは今回 ICT 支援員の方も来ていただいております。この応其小学校だけではなく大半の学校、中学校も含めて回っていただいておりますので、授業の雰囲気であるとか子どもの反応であるとか、先生方の指導のこと等についてお話いただけたらと思います。

ICT 支援員 初めまして。ICT 支援員の奥野と申します。橋本市の学校を 9 校担当させていただいております。本日は応其小学校を担当させていただき、会議に参加させていただいております。今後ともよろしくお願いいたします。

まだ 5 月からですが、9 校回らせていただきまして、どの学校も導入という状態になっております。本日、応其小学校は 5 回目の訪問ですが、その 5 回目の訪問で子どもたちがあそこまで使えているということはすごいことだと思っております。先生方がとても関心をもって、いつもソフトのことや GIGA 端末のことについてご質問いただき、今日も授業が終わった後に研修会をさせていただきます。先生方といつも密にお話をさせていただいております。

私の役割といたしましては、授業のサポート、トラブル対応であったりとか操作の補助であったりとかそういうことをさせていただいております。先生方とも打ち合わせ、授業のご相談、全国の事例に基づいてお話をさせていただき、今後の ICT 活用が進むようにお手伝いさせていただこうと思っております。まだ導入ですが私がよく思うことは、どの学校でもとても熱心に先生方がされております。初めての GIGA 端末で子どもたちも先生方も慣れないところを授業にどのように結びつけるのか、どのように活用すればいいのか、スムーズに授業に持っていくにはどうしたらいいのか、いつもそのようなご質問があります。保管庫の問題や端末の問題、あとソフトの問題などいろんな問題を先生方と一緒にいつもお話させていただいている状態です。今後ともよろしくお願いいたします。

教育部長 ありがとうございます。担任の先生からのお話もございました。また支援員の方のお話もございました。後ほど校長先生から、学校全体のことをご報告いただきますが、まず委員の皆さんから意見交換等していただければと思います。よろしくお願いいたします。

籾下委員

授業を見せていただき、本当に子どもたちも真剣に取り組んでいて、普段もあのよう授業をされているのだなと感じました。授業中に校長先生と少し話をしたのですが、確かにあの机ではタブレットを落とす子が出てくるだろうということで、子どもによれば何もなくてもノート、消しゴム、鉛筆があっても常に何か落ちるといような子もいると思います。タブレットであれば滑り止めが要るのか、もしくはあの状態に慣れさせるのか、落とした事故もあると書いてありますし、その点が少し心配なところでは。

それから六年生の授業でノートにまとめたものを、オクリンクを使い全体に共有するという点について、これはどうするのかと楽しみにしていました。実際に見せていただきよく理解出来ました。自分の書いた物を先生のところに送り、ノートがみんなに見られるわけですね。これはノートを綺麗に取らないといけない、そんなプレッシャーもかかるかなと思いますが、逆に良い面もあるのかなという気がしました。

あとソフトによれば、写真を撮るときに斜めに撮っても斜めに映るのではなく、ドキュメントとしてその部分だけまっすぐ認識出来るというソフトもあると思うのですが、そのあたりについてはどうでしょうか。また後でお答えいただけたらと思います。

それとタブレットの保管庫ですが、これは学校の予算でそういうものがあるのか、教育委員会の予算であるのか。ある横浜の小学校では学校の予算で保管庫を設置してあると聞きましたので。

教育部長

ありがとうございます。保管庫については、教育総務課の久保田係長からご説明させていただきます。

教育総務課  
企画総務係長

充電保管庫ですが、昨年のGIGAスクールのネットワークの整備に合わせて、当時普通教室であった部屋にすべて入れている状況にあります。当時、補助金の関係で設置場所から動かさないようにするように国からの指示があり、現状今の設置部屋から動かさない状況にあります。新しく教室が増えたりして充電保管庫がない部屋で、今後授業とかをすることになった場合は、教育委員会の方で予算要求をして充電保管庫等を整備していかないといけないと考えているところであります。ですが、今年度につきましてはそういう教室があるということは聞いておりませんので予算要求は、今年度はしていない状況にあります。また来年度以降、各学校の教室数を確認して必要に応じて予算要求をしていきたいと考えております。以上です。

教育部長

他に委員の皆さんからご意見や感想等ございませんか。

中尾委員

2月の総合教育会議の時に市長さんから、支援員は3年間付けますとお聞きしてそれがもうすでに5月から2ヶ月続いていて、とても嬉しく思います。本当にしてくださったのだということ、素早い対応、それがこれから求められていることかなと思ってありがたく今日授業を見せていただきました。

ICT 支援員さんがいるということで先生も子どもたちも、ゆとりをもって取り組めるのではないかと思いました。それとタブレットの持ち帰りは壊したりする可能性があるので駄目だと市長さんがおっしゃっていたのですが、将来的には遠隔授業ということでそういう方向になるようにやって欲しいなと思いました。

教育部長                    ありがとうございます。  
持ち帰りのことについては、また意見交換等してもらえたらいいと思います。  
他に何かございませんか。

吉田委員                    先ほどもお話ししましたが、ソフトに関しては ICT 支援員さんがやってくれるだろうと思います。ただ機械のトラブルがやはり起こってくるだろうと思うので、そういうことについても ICT 支援員さんが対応は可能なのですか。

ICT 支援員                私のほうでは先生方からご相談があった時には、すべて対応させていただいております。大体問題の規定分けをさせていただきまして、これは教育委員会にご報告した方がいい内容かどうかということも私の方で先生とお話させていただいております。

吉田委員                    わかりました。トラブルが発生した時に、すぐに対応してもらえるシステムがあれば教員としても非常に安心だと思います。それがきちっとしているということは、この ICT 教育において大事なことだろうと思います。児童生徒が授業を消化していく上で、その授業で使った教材というのを各学校でホームページ上にアップしてもらえるのであれば、児童生徒が復習として使えるのであれば、非常に良いだろうと思います。ICT 教育でそのまま画面が流れてしまえば、次に利用するということがなかなか出来ないで、そのためには教材がきちっと使える状態にあるということは非常に大事だと思います。それはメモリー数の状況で各学校のホームページ上に保存出来るかどうかという問題はあるかもしれませんが、そうしてあげてもらえれば非常にありがたいなと思います。

ICT 支援員                本日された二つの授業に関しましても、クラウド上には全部保存されていきます。いつでも先生方や子どもたちが振り返りを出来るようなシステムになっております。

吉田委員                    ありがとうございます。

田中委員                    授業中のタブレットのフリーズや機械のトラブルということが、一番のネックになってくるかと思うのですが、今は支援員さんが来てくださっています。3 年という契約ですので、今後どうしていくのかということが問題になってくるかと思えます。例えば教育委員会とか、橋本市でそういった対応が出来る人や部署があれば、今後何かあっても困らないかなと思いました。それとベストミックスが一番良いという

ことで機械を使うことによって便利なこともありますし、対話でこうした方がいいなど思うこともきっと出てくると思います。そういうところも大事に子どもたちの成長を飛び越えずに、人との触れ合いも大事にしながら進めていただけたらと思います。

教育部長

ありがとうございます。

今日は意見交換ということで各委員の皆さんからタブレットの持ち帰り、机の大きさ、支援員が3年で切れた場合ということでご意見いただいています。まず教育委員会事務局の方針や考えはお伝えしていく中で議論を深めていただき、第3回の総合教育会議に諮っていけるようになればと思っておりますので、また議論する時間を定例会も含めて持っていただきたいと思いますと考えております。

辻脇校長先生の方から応其小学校の今の全体のことを少しお話いただければと思っています。

応其小学校

校長

令和2年度に機械が入ってきて、最低ラインとしてログインが出来るようになりましょうということで皆さんが悩みながら、ログインに時間がかかっていた昨年度でしたが、本年度になって回数が増えて慣れてきたので、トラブルもあったりはしますが、この3ヶ月子どもたちもタブレットにさわる機会が増えてきて楽しんで使っている状況です。今日は緊張している子どもたちの姿でしたが、普段は例えば2年生であればスイミーを動かしたり、魚の色を変えたりしながらニコニコしながら「見て、見て」と楽しんでおります。子どもたちにとっては学習教材であるとともに興味を注ぐ教材であり、楽しい文房具であると思っています。子どもたちの学びについては、これから個別最適な学びをどう作っていくかという部分もあります。一人一人の個性に合わせた学びも出てくるでしょうし、一定の目標に合わせてすることも必要でしょうし、どんな形の指導方法がいいのかというのは考えていくことが必要だと思っています。

一方、教員につきましては、応其小学校の先生たちはどちらかと言えばアナログ型かなというようなイメージがありました。ICTの虫みたいな先生も特にいません。理科の専科につきましては画像を使いながらいろいろやっていますが、大半はアナログです。子どもたちの意見を言うときには発表ボードやラミネートシートに書き込んだりするような授業が中心です。今後そういう先生方の従来の指導方法とICTを混ぜながらやっていこうということで、先生方の授業の質の改善を目指しております。子どもたちの学びにとって、こういった使い方をすると学びの質を上げていけるのかという部分は間違わないようにして、今後も熱くなりながら、でも冷静に急がずエキサイトせず、やれることは何かというのは常に子どもも学んでいますが、教員も同じように学び続けていけたらと思っております。

環境云々については予算面もありますので何とも言えませんが、何年か前に入った50インチのテレビも教室で見ますと小さく感じました。入れた時は大きく見えたのですが、人間の目はいろいろと変わってきたら感じ方も変わるものなのかなと思います。あと、先生方がネットを通して教材をつかまえる機会が増えました。

出来るだけ指導の部分だけでもブロックされないネットで取れるようなシステムになれば教員が教材を貯めていく部分で、より使い勝手も良くなるのかなと思ったりしています。これからまだまだ、トライアンドエラーの時期ですので何が良いかということは見出せないのですが、とにかくいろんなことをやってみて系統立てて、例えば写真を撮る練習はいつがいいのかとか、子どもはキーボードが苦手ですのでキーボードのタイピングをどういった時期に指導していくのか、今はどうにか高学年はとにかく打って文字にはしていますが、そういった意味でもタイピングの練習とかもあったらいいかなと思ったりしています。そのような状況で、とにかく教員も子どもも楽しみながら、学び続けられればいいのかなと思っています。またいろいろとご支援よろしく申し上げます。以上です。

教育長

今日はありがとうございます。

子どもたちが使っている様子を見る中で、良い滑り出しが出来ているのかなというように感じています。とにかく学びの質を向上させるということが目的ではありますが、そのためにはタブレット端末に備えられている機能がどんなものであるのかということをつかみながら、それを議論することは出来ないと思います。どのような機能があり、この機能はどの学年で使えるようにしたほうがいいのか、モラルも含めて、この学年でこういうことが必要だということをしっかりと時間をかけて押さえておくことが大事かなと思います。

ただそれだけを学ぶということが出来ないので、この教材をどの学年で使うとか、どのようなことが学べるというような資料提供をいただきたいなと思います。どの学校もこれを使えば、そのことが一定保証出来るという体制が出来ていると思いますので、ぜひお願いしたいなとそんなふうに思いました。

それとハード的なことについて、先ほど校長先生も言ってくれていましたが、モニターがかなり重要な役割を果たすということが報告されています。最低でも 65 インチというのが今よく言われていることだと思います。今、あるものを使ってということになりますので、当面の間は良い使い方を先生方と一緒に考えていく必要があるかなと思います。

それと、応其小学校の学習の決まりが四年生と六年生の両方の教室に貼っていました。それぞれの学年に応じて、少しずつ変えていってこれているということですが、やはりベストミックスなメディアの使い方をしていかないといけないということからすると、四年生では話はメモを取りながら最後まで聞く、文字は早く丁寧に書く、次の学習の用意をしておく、これが四年生でした。六年生では考えながら話を聞く。文字を早く丁寧に書く、時間を守る、これは六年生でした。ベストミックスな学習をしていく上での基本的な態度を書いていると思います。やはり「書く」ということは抜きに出来ない。私が以前ここに勤めていた時に、文字は早く、わかりやすく、丁寧に書けるよということをおっしゃっていたのを今でも覚えてくださっているのだと思いました。それが出来なければ、今まで以上のものを使うようになりますので、ゆっくり出来ないということもあります。話を聞きながら、考えながら、作業しながらということをおこなう要素があの中に入っている

るかなと思うので、その実践をまた良い事例として出していただけたら嬉しく思います。

タブレットを使い始めたところですが、いろんな機能を子どもたちが自分だけではなく隣のお友達と話し合いをしながら学んでいる様子は本当にいい姿だなと思いました。これを使うことによって違った意味での学び合い、学習面だけではなく学級の目標にも書いていましたが、お互いにアシストするということを取り入れる、支援員がいなくなっても出来るようにしていくことが大事なので、それはその部屋にいるメンバーで作っていく必要があると思います。

いつまでも支援員に頼っているのではなくて、自分たちでどうしていくのかということを考えることもすごく大事だなということを改めて今日感じました。今日見せてもらったこと、そして指定校 4 校作っています。9 月初めには、和歌山大学の先生に来てもらっての研修会も用意しています。そういったことを含めながら、少しずつ、今年度は特に基礎を固めていくことが出来たらなと思っていますのでどうかよろしく願いいたします。

教育部長

ありがとうございます。

では、市長よろしく願いいたします。

市長

冒頭のあいさつでも言いましたように、慌てて全てを完璧にする必要はないです。これを動かすことによって新たな問題も出てくるので、その辺りは教育委員会と学校がしっかり連携を取りながら何が必要なのか、どういう方法があるのかということをよく考えて対応してもらったらいいと思います。

タブレットも 5 年経つと全て入れ替えないとイケないという問題も実はありまして、またこれを入れ替える時のお金の心配があります。その時に補助金はつくのかなということもあります。

今日の授業を見て思ったのですが、通信環境のない家庭もありますので、そこでタブレットを持ち帰っても教える環境があるのかとか、使える環境があるのか、持ち帰りをすることにより格差が生まれてくる可能性もあるのではないかと感じました。平行四辺形の敷き詰め問題では、非常に早い子や独創的な子は並べ方も間を空けて間にまた違う色を入れていく子もいてましたし、ゆっくり丁寧に置いていく、ちょっとスピードが遅いかなという子どもたちもいてたと思います。そこをどれだけ学校の中で、同じようなスピードに出来るようにしてあげるか、不安を持っている子どもに対して学校としてどういうフォローをしてあげられるのか、そういったところも大事かなと思います。ICT が導入されましたが、教育から見れば、そういうランクが出来てしまって、子どもたちがまたそういうところから離れていくとなかなか授業がわからなくなってしまうところがあるのかなと感じます。3 年間は ICT 支援員さんが来てくれていますが、4 年目以降どうするのか、先ほど出ていました担任の先生だけの時にどういうフォローをどういう方法でしてあげるのかという問題もあります。応其小学校を見ていたら、よく知っている子は分からないお友達のところに回って教えていました。そういう学級の中で教え合う環境づくり

をもっと進めていく必要があると思います。今は支援員の方がいてくれています、毎日入ってもらえるわけでもないですし他の学校も回ってもらう必要があります。やはりクラスのリーダー的な子にお友達に「教えてあげて」と声掛けをすることか、例えば班を作ってそこにリーダーを置いて回していくとか、学校で工夫をすることによって、子どもたち同士の繋がりも出来てくるのではないかと思います。

とにかく結論を出すことに焦らずに、子どもたちのためにどのような教育をしてあげられるのかというところをこの3年の間に導いてもらいたいと思います。ただ子どもたちは卒業して、また新しい子どもたちが毎年入ってきます。もしかするとクラスによってはリーダー的な子がいないケースも出てきますし、学級の人数が少ないところになると、そういう面でリーダー的な子がいないとかという問題もあるかと思っています。

ICTを進めていくことも大事ですが、各学校でわからない子にはわかっている子が教えるというような教育環境づくり・取り組みをしてもらって、また今後必要なものがあれば言ってもらえれば検討しますが、とにかく今の環境の中でどのように教育を進めていくかを考えてもらえればいいかと思っています。

市もデジタル化を進めなければなりません。役所の中にも政策企画課の中にはすごい人がいます。そういう人と教育委員会が繋がって、学校の先生がわからないことを政策企画課も教育委員会と協力をして不安なところは一緒にやっていくということをしてもらえればいいと思います。デジタル化の推進チームも出来ております。その中で一緒に教育のICT化も繋がっていったらいいのかなと思います。教育委員会だけで考えても、一つのことしか出来ませんが、他の部署から来たらその経験上またプラスアルファが出てくると思うので、1+1が3になるようにしてもらえたらいいのかなと思います。

橋本市でも民間企業との包括協定を結んでいって、民間のノウハウを入れることによって変えていけるのではないかと今、取り組みを始めています。15日にパナソニックと包括協定を結んで、福祉収集でゴミ箱がいっぱいになると市に連絡がきてそれを収集に行こうと、それもパナソニックと橋本市と組んでそういう事業もあると思いますし、またそういう企業との連携も教育委員会の中で言ってもらえば、逆に包括協定を結んだ企業と一緒に提案をもらえるようなことも出来ると思うので、そういうのをうまく利用して子どもたちのためになるようにしてもらえればいいかなと思います。

試行錯誤しながら、悩みながら、本当に時代の変化の中で自分たちの力では出来ないことは外へ求めたらいいと思います。ICT支援員さんもそういう面に来てもらっていると思うので、子どものためになる教育でないという意味がない。そして、落ちこぼれる子どもがいたら絶対駄目である。子どもの貧困の問題でそういう家庭環境にない子どもたちをどう救うのかという難しい問題があります。

とにかく新しい挑戦なのでしっかりと前へ進めていってください。

教育部長

ありがとうございました。

今日の授業を参観した上で、今後教育委員会としても検討していく題材がたくさん



ん出て参りました。市との連携、企業との連携、持ち帰り、また机の天板をどうするか、また今後学校での工夫も必要になってくる中で支援員さんの役割というのを学校でも担っていただけるのか等々も含めて、定例会のお時間をいただきながら、さらに議論を深めて次の総合教育会議にかけていきたいと思っております。よろしくお願いをいたします。

他に委員の皆さんご意見等ございませんか。

校長先生よろしいでしょうか。

応其小学校  
校長

「共に学ぶ」というのは、前々校長の今田教育長の時から掲げてくれています。子どもたちが友達からいろんなことを学ぶ非常に大事な部分ですので、やはり学び合いを ICT の中でも大事にして、子どもたち同士で高め合っていければいいと思っています。共に学ぶ教育を今年の教育目標にも掲げましたので、地域も踏まえて地域も家庭も巻き込んで学びを広げたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

教育部長

ありがとうございました。

ICT 支援員の皆さんどうもありがとうございました。

それでは閉会に当たりまして、教育長からご挨拶をお願いいたします。

ありがとうございました。

教育長

本日は総合教育会議開催にあたって授業、そしてこういう協議の場を設定いただきました応其小学校に感謝申し上げます。ありがとうございました。

私が教育長になる時に、市長から GIGA スクール構想を 3 年間の間で形にして欲しいと言われたのですが、本当にこの 1 年はしっかり土台づくりが出来るようにということを考えております。それを今日の授業提供していただいたことで、みんなで雰囲気や意味合いを共有出来たと思います。

その上に立って、2 年目 3 年目は目指すところへ少しでも進んでいけるようにしたいと思いますので、今後とも忌憚のないご意見をいただき、学校とともに GIGA スクール構想が着実に進んでいけるように、それぞれの立場でこれからも参画いただきますようお願い申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

教育部長

以上をもちまして、令和 3 年度第 1 回橋本市総合教育会議を終了いたします。

ありがとうございました。

お気をつけてお帰りください。

閉会 午前 11 時 20 分